



Vol.17 / No.2



平成19年野球殿堂入り表彰式 ～祝福の場～

事務局長 小林二三男

平成19年の野球殿堂は、競技者表彰委員会から20年間阪急を支えたサウスポーで歴代3位の通算867登板・歴代9位の通算254勝・歴代6位の通算2945奪三振の故梶本 隆夫氏、特別表彰委員会からロサンゼルス五輪全日本チーム監督として野球を金メダルに導き、その年の世界アマチュア野球連盟最優秀監督賞を受賞した松永 怜一氏が選出されました。表彰式は7月20日(金)東京ドームで行われたオールスター第1戦で多くのファンや全出場選手の見守るなか執り行われました。

今回は、開会式の中で表彰式を行うという形で始まりました。試合前、両軍の選手・監督・コーチが場内アナウンスに従ってグラウンドに入場・整列した後、オーロラビジョンで顕彰者の現役時代の勇姿が紹介される中、お一人ずつの入場となりました。故梶本氏の代理で出席された享子夫人は孫の田村 将人^{しょうと}さんと梶本 明里^{あかり}ちゃんを連れて、大きな拍手のなか入場されました。その後(財)野球体育博物館 根来 泰周理事長から梶本氏・松永氏にそれぞれ記念のレリーフが贈られました。プレゼンターとして殿堂入り先輩の金田 正一氏(1988年殿堂入り)と上田 利治氏(2003年殿堂入り)からお孫さん二人へ、松永氏の法政大学監督時代の教え子であり北京五輪野球日本代表チームのコーチを務める田淵 幸一氏と山本 浩二氏から恩師へお祝いの花束が贈られました。

顕彰者お二人を代表して松永氏は「人生最高の喜びです。野球の神様が人を利用するよりも人の為に尽くす大切さを教えてくれました。今後も後進のため、野球界の発展のために捧げていきたい。又、星野、田淵、山本の3羽ガラスが時代の先駆者として全身全霊を尽くしている星野ジャパンに絶大なるご支援をお願いしたい。」と感謝の気持ちと指導者としての変わらぬ意気込みが感じられる挨拶をされました。

又、この日を待たず昨年9月に惜しくもお亡くなりになられた梶本氏に代わって2人のお孫さんが出席して、ご家族全員でこの殿堂入りを喜ばれた姿がとても印象的でした。



左より 上田 利治氏、金田 正一氏、田村 将人君、梶本 享子氏、梶本 明里ちゃん、松永 怜一氏、田淵 幸一氏、山本 浩二氏



夏休み情報

展示編

① 特別展「平成19年度 野球殿堂入り特別展」

- 会期 ~ 9月26日(水)
- 会場 野球殿堂ホール

今年殿堂入りの梶本 隆夫氏、松永 怜一氏の特別展を開催します。2氏ゆかりの資料や写真をはじめ、経歴や記録などを紹介します。7月20日のオールスターゲーム第1戦（東京ドーム）での表彰式でお披露目されたレリーフは、野球殿堂にて永久に掲額されます。

② 特別展「オールスターの70年 1937~2007」

- 会期 ~ 9月4日(火)
- 会場 企画展示室（詳細は4面へ）

イベント編

① 「野球で自由研究！」

- 期間 ~ 9月2日(日)

野球には、歴史や用語、野球場、用具など自由研究のテーマになるものがたくさんあります。館内の展示や図書室の本を使って調べたり、実物のバットやグラブなどに触れたりしながら、楽しく自由研究ができるよう、スタッフがお手伝いします。

昨年のように→



② 「バット製作実演」

- 会期 2007年8月11日(土)、12日(日)
- 時間 11:00~12:00、13:30~14:30
15:00~16:00 予定
- 協力 ミズノ株式会社

今年も、ミズノ株式会社のご協力により同社のクラフトマンによるバット削りの実演を開催します。また、バットにまつわるいろいろな質問にもお答えします。

自由研究にも活用できるイベントです！

昨年のように→



③ 「夏休み親子グラブ製作教室」

- 日時 2007年8月13日(月)
- 時間 13:00~15:00 予定

今年も、ミズノのスタッフ指導のもと、親子で軟式少年用グラブの製作（おもにヒモ通し）をするイベントを行います。

*参加者の募集は終了しましたが、ご見学はできます。



殿堂入りの人々を語る(16)

「父との思い出」

別所 輝昭 (別所 毅彦氏 長男)



1979年殿堂入り
別所 毅彦氏レリーフ

別所家のルーツは、兵庫県三木市の城主「別所長治（べっしょながはる）」で、天正8年（1580年）に豊臣秀吉によって23才の若さで滅ぼされ、本家の墓が淡路島にあります。そこへ毎年、父と墓参りに行くのが恒例行事で、父が亡くなった後も私が引き継いで40年以上もお参りに行っております。初代長治から数えて父が25代目ということで、この世に再びプロ野球を通じて「別所」という名前を全国に知らしめた、実はスゴイ人！なのです。墓参りの行き方はさまざまな方法があり、二人で東京から車を運転して行ったり、飛行機・新幹線・バス・JR線・フェリーボートなどを駆使したりで、毎回大騒ぎしながらのちょっとした小旅行です。

父の通算記録310勝を達成した時私は7才で、実際に投げている勇姿をナマで見たのは、9才の時の後楽園球場での引退試合が最初で最後でした。この時目を釘付けにして父のピッチングを見ていた事を、今でも鮮明に覚えています。その頃、私の通っていた小学校で「父親参観日」というのがあり、父が初めて学校に来てくれ大変に嬉しかったのですが、校内が少し混乱気味になり、気が付くとサイン会になっていました。私は子供の頃から、尊敬する人物は父であると言ってきましたが、父の晩年はまるで悟りを開いた高僧のようでした。一回だけ私も講演を聞きに行った事がありましたが、人の心を引きつける話術にも長けていたと思います。自分の若い頃の苦労話や、プロ野球界のゴシップ的な話で引きつけておき、最後は「人間とはかくあるべし」という内容で、大手・中小企業団体などからのオファーがかなりあったようです。多い時は年になんと300回近く講演をしていたようで、強靱な体と精神力によるまるで全国行脚のお坊さんのようでした。そんな偉大な父を持った私は幸せ者だと思いますが、76才での他界は少し早かったような気がします。亡くなった1999年の暮に「センチュリー・ベストナイン賞」に選ばれ、私が代理でドームホテルへ賞を頂きに参りましたが、本人がいたらさぞ感激をして喜んだことでしょう。

そんな偉大な父も、家にいる時はただのおっさん？の様にテレビにかじりついて、時代劇や漫才などをよく見ていました。野球が休みで父が家にいる時の夕食は鍋物が多く、ブタちり・すき焼き・揚げながら食べる串カツや天プラなど、自分でやらないと気がすまないいわゆる鍋奉行でした。その豪快な食べ方を見ていると何でも美味しく感じました。

私が小さい頃楽しみだった事は、家族揃って「東京温泉」という巨大な風呂屋に行き、蒸し風呂（サウナ）などに入った後に、焼肉を食べて帰るといって我が家唯一のレクリエーションと、父がキャッチャー役の庭でのキャッチボールと、一緒に行く床屋さんでした。散髪をした後は、隣にあった映画館に必ず入って時代劇を観るのが常で、その際にいつもアイスクリームを買ってくれるのが楽しみで今でもよく憶えています。その支払いの時に、小銭入れではなくズボンのポケットからダイレクトに小銭を出す仕草が、とても男らしく見えました。悔しい思い出としては、父のゴルフと麻雀はプロ級だったので、生涯勝つ事が出来なかった事です。

父から学んだ事はたくさんありますが、やはり一番大切にしている事は、人は生涯勉強しながら「真（まこと）を尽くす」という事です。常に謙虚な気持ちを持ち、働く時は働き楽しむ時は楽しむ。どちらかにかたよらずに調和をよくしていくこと、これが中道であり正道である、といつも言っておりました。野球人としてだけでなく、一人の人間としても頂点をきわめた父から、いろいろ教わった事を思い出し毎日を一生懸命に生きていく事が、今となればささやかな親孝行なのかもしれません。

きっとあの世でも、豪快に「ガハハ！」と笑っていることでしょう。

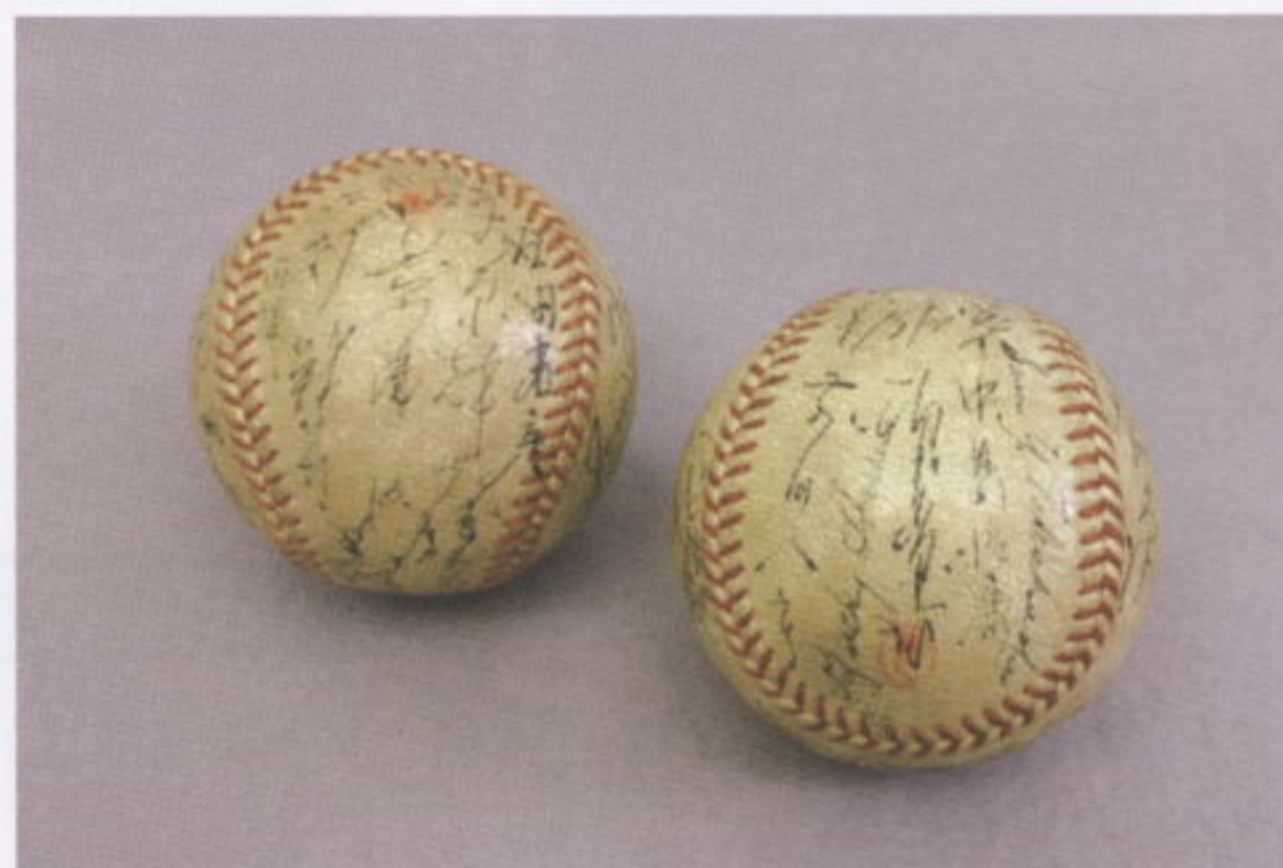


もの 知ってほしいこんな資料(60)

1937年東西対抗サインボール

当博物館では夏季特別展として「オールスターの70年」を開催中です。今回は同展で展示中の“日本最初のオールスター”1937年東西対抗のサインボールをご紹介します。

日本プロ野球での、「選抜されたスター選手によるオールスター試合」は、大阪朝日新聞運動部の芥田 武夫記者（早稲田大学野球部の名外野手、1988年野球殿堂入り）の発案で、公式戦開始から2年目の1937年に始まりました。名称は「職業野球オールスター東西対抗試合」で、大阪朝日新聞社社会事業団の主催。選手はファン投票ではなく、選手選抜審査委員会によって選抜されました。1リーグ8球団を東西（東軍：巨人、セネターズ、ライオン、イーグルス、西軍：タイガース、阪急、金鯱、名古屋）に分けて選抜し、東西のスター選手が一堂に会して2戦先勝制で行われ、甲子園球場で11月20日、21日、23日の計3試合が行われました。第1試合は、同年春季MVPの沢村栄治投手（巨人）と秋季MVPを獲得するハリス選手（イーグルス）の東軍バッテリーが西軍の強打者を抑え14-0で大勝。第2試合は、西軍が西村 幸生投手、松木 謙治郎選手らタイガース勢の活躍により4-1で勝利。1勝1敗で行われた3戦目は、西軍が12安打で東軍を圧倒し9-2で勝利しました。3試合を通じて打撃賞に山下 実選手（阪急）、守備賞に水原 茂選手（巨人）が選ばれています。



試合数など変化しますが、「東西対抗」はその後も毎年開催され、1944年は空襲により後楽園球場では中止となるも、西宮球場での3試合が開催され、戦後は、1945年11月に復活し人気を集めました。その後、1949年の第13回大会まで開催され、1リーグ時代の通算では東軍35勝、西軍30勝、引分2という成績が残されています。

サインボールの写真左が西軍、右が東軍で、西軍の正面中央が景浦 将選手（タイガース）、東軍の正面中央が沢村 栄治投手です。この他にもプロ野球草創期の名選手のサインが並んでおり、殿堂入りでは石本 秀一監督、松木 謙治郎、若林 忠志、西村 幸生、山下 実、宮武 三郎（以上西軍）、藤本 定義監督、中島 治康、水原 茂、白石 敏男（のち勝巳）、菊田 久徳、スタルヒン各選手（以上東軍）のサインが記されています。夏季特別展「オールスターの70年」は9月4日まで開催中です。ぜひご覧下さい。

学芸員 関口 貴広

夏季特別展 『オールスターの70年 1937~2007』

会期 ~9月4日(火)

日本のプロ野球では、選抜されたスター選手によるオールスター試合は、公式戦開始から2年目の1937年に始まりました。当時は1リーグ制のため、所属球団で東西に分け、「東西対抗」として開催されました。2リーグ制がスタートした翌年の1951年からは、現在のセ・パ両リーグ対抗によるオールスターゲームが行われています。

今回の企画展では、「夢の球宴」と呼ばれるプロ野球オールスターゲームの70年の歴史を、出場選手集合写真を中心に映像、記念の資料等とともに振り返ります。



●オールスターゲーム映像上映スケジュール

1951~81年（53~56、77年除く）	日程	7/10~15、7/30~8/5、8/20~8/26
1980~95年	日程	7/16~22、8/6~12、8/27~9/2
1994~2006年	日程	7/23~29、8/13~19、9/3、4

※詳細は当館ホームページで



コラム／博覧・博楽 (23)



師の教え・解説の極意

島村 俊治 (野球体育博物館 維持会員)

7月の初め、講演の依頼で広島県・呉市を訪れた。NHK時代に広島に勤務、メバル釣りに熱中し、呉を拠点に瀬戸の島々を釣り歩いた懐かしいところだ。呉二河球場は南海ホークスのキャンプ地、寒さに震えながら取材し、オープン戦実況のマイクを握った頃が無性に愛おしく思い出される。

NHK時代からフリーに至る現在まで何百人もの野球解説者のお相手をしてきたが、その中に、私の人生の師匠が二人いる。勿論、私が、勝手に「師」と仰いでいるだけで、お二人は「弟子にした覚えはない」といわれるだろう。恐れ多くも、鶴岡 一人さんと川上 哲治さんである。

「鶴岡親分」の故郷・呉市を数十年ぶりに訪れ、「親分」と過ごした放送席、旅のキャンプ、反省会と称する宴などが走馬灯のように思い起こされた。鶴岡さんと川上さんは放送席での「解説者」としてのあり方が対照的だった。鶴岡さんは「打ち合わせやテストはやらんもんや。話が死んでしまう。出たところ勝負が面白いんとちがいまっか。ああしましょう、こうしましょうと、頭で勝手に考えても、試合の流れは、そうは行きまへんのや。アドリブでっせ。」

「石橋を叩いても渡らない」といわれた「V9監督」川上さんは、「打ち合わせはしっかりやりましょう。その試合のテーマ、見所、何を語るかをしっかり確認しておくことが大切でしょう。そうじゃなきゃ、私は解説はやりません。」川上さんはスコアブックの横に箇条書きで、その試合でいいことをしっかり書きとめる。「今日は、シマちゃん、このポイントを聞いてください。」2年前、85歳になられて、久しぶりにマイクをご一緒させてもらったが、相変わらず、その日、言いたいことはびっしり書きとめられていた。

今でも、私の座右の銘は、鶴岡さんが宴席で諭してくださったフレーズだ。それは、プロ野球の、こんなシーンだった。プロ野球アナウンサーになり、ちょっとばかり自信がつき、いい気になり始めた頃だった。難波・大阪球場で南海ホークスの試合を実況していた時のこと、「打ちました。セカンド正面の何でもないゴロ、おおっと、セカンド、トンネル、これはいけない。腰も落とさず軽率なプレー。鶴岡さん、この選手はキャンプで何をやってたんでしょうねえ。平凡なゴロですよ。」私は鬼の首をとったように、その選手のミスを責めた。「そやなあ、ちょっとまずかったなあ。反省してるでしょうなあ。」

その夜、一杯やりながら、親分はこう言われた。「あんたのゆうたことは、間違っとらへん。だがなあ、選手には妻もあれば、子もあり、親もあるんや。その人たちが、あんたの放送を聞いとるんや。わかるかなあ。」

ちょっと仕事ができるようになったからといって、「いい気になりなさんな。謙虚になりなさい。」ということ論されたのだ。今でも、マイクの前に立つとき、私は親分の言葉を必ず言い聞かせる。「親も子も妻もあるんやぜ。」普段は口の悪いアナウンサーだから、なおのこと、この言葉は身にしみている。最近のテレビで売れっ子のキャスターや女子アナどもに、ぜひ聞かせたいフレーズでもあるのだが。

「親分の説教、66歳の老アナウンサーになっても、忘れるものではごんせん。」

川上さんは人の話をよく聞かれる方だ。キャンプや試合前の取材をしたあと、必ず川上さんの方から質問が飛ぶ「どうかね、シマちゃんが見た巨人の投手陣は?」「ええっ、監督はどう見てるんですか。」「放送じゃ、シマちゃんが聞くが、普段は私が聞きたいんだ。」

監督時代に使ってきたコーチで、「答えを持ってくるコーチがいいコーチだと私は思っているんですよ。状態は把握していても、答えが出せないようではコーチ失格で私は使いません。各コーチの意見を聞いた上で、私が監督として総合的に判断して、結論を出し、決断するんです」

川上さんは禅の修業の中から「成りきる」ということを目指されたと聞いている。私も川上さんの受け売りなのだが、スポーツアナウンサー、ジャーナリズムの道を、「成りきってみたい」と思いつつ、歩んでいる。66歳になったが、まだ、ジェイスポーツのプロ野球中継で、5、6時間は喋り続けている。三連投も「軽く」こなす。勿論、「師」の教えを守りつつ。



こんにちは図書室です



毎年オールスターゲームでは、MVP選手にたくさんの賞品が贈られます。そこで、これまで、どんな商品があったかを表にしました。

賞品も時代とともに自転車からオートバイ、車と変わっていき、1987年からは、スポンサー会社の賞品の他に賞金200万円が贈られるようになりました。

MVPではありませんが、1967年に話題になったのが監督賞。第2戦に三原、鶴岡両監督へ“コリー犬”が贈られました。スポンサーが動物用医療輸入の商社だったためです。成犬は飼いきいので、子犬をもらうことになったと、当時の新聞に記載されています。

また、参考までに当時の公務員の初任給と出来事を記載しました。賞品から時代の移り変わりを感じることができるのではないのでしょうか。

司書 山根 礼子

オールスターゲームMVPの賞品

年	月日または戦	球場	受賞者	主な商品	当時の物価 (公務員の初任給)	日本での出来事
1951	3試合通じてのMVP		杉下 茂(名古屋)	ボストンバック	5,500円	サンフランシスコ講和条約
1953	3試合通じてのMVP		堀井数夫(南海)	自転車	7,650円 (1952年)	テレビ放送開始
1954	7月4日 第2戦	後楽園	山内和弘(毎日)	オートバイ	8,700円	電気洗濯機、冷蔵庫、掃除機が三種の神器といわれた。
1959	2試合通じて		山内和弘(毎日)	オートバイ、ルームクーラー、冷蔵庫、洗濯機	10,680円	皇太子殿下(現 天皇陛下)ご成婚
1960	7月27日 第3戦	後楽園	張本 勲(東映)	オートバイ、ステレオ	10,800円	NHKカラーテレビ放送開始
1964	7月20日 第1戦 7月21日 第2戦	川崎 中日	金田正一(国鉄) マーシャル(中日)	カラーテレビ 小型自動車、洗濯機、ミシン	19,100円	東京オリンピック開催、 東海道新幹線開通
1965	7月20日 第2戦	西宮	高倉照幸(西鉄)	クーラー、ガスレンジ	21,600円	第1回ドラフト会議開催
1966	7月20日 第2戦	甲子園	榎本喜八(東京)	テープレコーダー、 トランジスターラジオ	23,300円	カラーテレビ、クーラー、 カーの3Cが新三種の神器 となる。ザ・ビートルズ来日
1967	7月26日 第2戦	中日	長池徳二(阪急)	スポーツカー	25,200円	初の建国記念日
1970	7月21日 第3戦	広島	遠井五郎(阪神)	小型モーターバイク	36,100円	大阪万博開催
1973	7月24日 第3戦	平和台	山崎裕之(ロッテ)	モーターボート、クーラー	55,600円	オイルショック
1974	7月21日 第1戦	後楽園	高井保弘(阪急)	腕時計	72,800円	佐藤栄作前首相にノーベル 平和賞
1980	7月20日 第2戦	川崎	平野光泰(近鉄)	4泊5日のシンガポール旅行券、 時計	101,600円	イラン・イラク戦争始まる。
1981	7月25日 第1戦	甲子園	藤原 満(南海)	車、時計、VTR	この間の データは ありません。 ※参考 179,200円 (2006年)	神戸ポートアイランド博覧会 (ポートピア)開催
1985	7月21日 第2戦	川崎	クロマティ(巨人)	車、腕時計、 サイパン5日間ヘア招待		科学万博一つくば'85開幕
1987	7月25日 第1戦	西武	高沢秀昭(ロッテ)	8ミリビデオムービー、 テレビ、ミニコンボ、FAX		利根川進氏にノーベル生理 学・医学賞



《2007年度の維持会員を募集中！》

財団法人野球体育博物館は、昭和34年に野球専門の博物館として開館して以来、野球や体育に関する資料を収集・保管・公開してきました。バット等の実物・写真資料は約3万点、図書・雑誌は約5万冊を収蔵しており、展示や閲覧という形で多くの方々に利用していただいております。

また、年1回競技者表彰委員会と特別表彰委員会にて野球界の功労者を選出し、「野球殿堂入り」として表彰しています。

維持会員とは、このような博物館の事業にご賛同いただいた方々に、維持会費をお願いし、博物館の運営をご支援いただくものです。

1. 会員の特典

- (1) 当博物館発行「ニューズレター」(季刊)送付します。
 - (2) 無料で博物館に入館できる優待証を発行します。
 - (3) アメリカの野球博物館(クーパースタウンにある)にも無料で入館できます。
 - (4) 会員以外の方でも利用できる博物館招待券を差し上げます。
 - (5) イベント情報などを優先的にご案内します。
 - (6) 博物館で販売している商品が10%引きになります。
- *新個人会員には上記の特典のほか、3月に刊行した『野球殿堂2007』を進呈します。

*新ジュニア会員には上記の特典のほか、「野球体育博物館オリジナルピンバッチ」を差し上げます。

2. 会員の種類と会費

年会費(4月～翌年3月迄)

法人会員	1口	10万円
個人会員	1口	1万円
ジュニア会員(小・中学生)		2,000円

ご入会月により、初年度年会費の割引があります。

ご入会月	4月～9月	10月～12月	1月～3月
維持会費(個人会員)	10,000円	5,000円	2,000円

3. ご入会の方法

①館内にあります「維持会員募集のご案内」の“入会申込書”に、必要事項をご記入のうえ、係りにお渡しいただくかお送りください。

「維持会員募集のご案内」は郵送もいたしますので、ご希望の方は博物館までご連絡ください。

②“入会申込書”が届きしだい“維持会費のご請求書”をお送りしますので、維持会費をお振込みください。

お問い合わせ 博物館 業務部 高城・竹内
皆様のご協力、よろしくお願い申し上げます。

博物館からのお知らせ

【理事会・評議員会】



平成19年度の理事会・評議員会を6月11日(月)午前11時より、東京ドームホテルにおいて開催、理事および監事、評議員の計50名(意見書出席含)の出席があり、次の議題についてご承認いただきました。

- 議題1 平成18年度の事業報告・決算報告・監査報告並びに繰越金処理案承認の件
議題2 平成19年度事業計画案・収支予算案承認の件
議題3 基本財産の一部処分及び補填の件
議題4 表彰委員会規程の一部改正の件

【役員交代】

- 新任 鳥田 利正氏
(株)北海道日本ハムファイターズ取締役執行役員
南 信男氏
(株)阪神タイガース取締役社長・オーナー代行
退任 小嶋 武士氏、野崎 勝義氏

【訃報】

1989年に野球殿堂入りされました野口 二郎氏が5月21日に逝去されました。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

● 博物館のご案内

場 所 東京ドーム21ゲート右

開館時間 3月1日～9月30日 AM10時～PM6時
10月1日～2月末日 AM10時～PM5時
(入館は閉館の30分前まで)

入館料 大人 500円(300円) } ()は
小・中学生 200円(150円) } 20名以上の団体
65歳以上 300円

休館日 月曜日(祝日、プロ野球開催日、春・夏休み中の月曜日は開館)
年末年始(12月29日～1月1日)

《8月・9月・10月の休館日》

9月 10日
10月 1日・15日・22日・29日

*9月9日まで無休です。

*10月1日より開館時間がAM10時～PM5時(入館は4時30分まで)となります。

●編集後記 博物館では、夏休み期間中楽しいイベントを行っていますので、みなさんぜひいらして下さい。
殿堂入り表彰式を入れるため、発行が遅くなりましたことをご了承下さい。

Newsletter Vol.17 / No.2

2007年7月25日発行

編集・発行 財団法人 野球体育博物館

〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61

Tel 03 (3811) 3600 Fax 03 (3811) 5369

<http://www.baseball-museum.or.jp/>

定 価 100円



Vol.17 / No.2



リレー随筆(29)

競技者表彰委員会委員 大月 達也 (読売新聞大阪本社)

人間が緊張するのは「静」から「動」へ移る時だ、と言われて、なるほどと思った。某球団のスコアラーと「勝負強さ」について話していた時のことだ。

例えば、サッカーで一連のパス回しから一瞬のスキを突いてシュートをするとき、緊張という言葉はそぐわないだろう。それに対して、野球は、すべて「静」から「動」への繰り返しである。そこには、緊張とプレッシャーが常に付きまとうことになる。

先日、「得点圏打率」(走者を得点圏〈二塁か三塁〉に置いたときの打率)について取材する機会があった。野球はつまるところ、適時打が焦点になる。例えば、九回二死からの三塁打と右前打でサヨナラ勝ちをした場合、三塁打を放った打者より右前打を放った打者の活躍がたたえられる。その意味で、この数字は、勝利への貢献度のバロメーターになる。

球団内部でも、打者個人のものだけでなく、対戦チーム別、対戦投手別など事細かに算出して、戦術の一部にしていると聞く。実は、日本野球機構の「プロ野球公式記録集」には載っていない数字なのだが、セ・リーグの「グリーン・ブック」では、毎年取り上げられてきた。1999年までは「チャンス打率」という表記だった。

さて、抽象的で、堅苦しい話が続いたので、今のグラウンドに目を向けよう。セ・リーグの得点圏打率を眺めていたら、どの打者も年によって浮沈が激しいのが目につく。その中で、一人だけ昨年まで5年連続で得点圏打率3割以上をマークしている打者がいた。ちょっと突出した数字だった。本塁打を放った後のパフォーマンスなどで人気の、アレックス・ラミレス選手(ヤクルト)である。

緊張はしないのか。プレッシャーをどう克服しているのか。ちょうど7月4日の阪神戦(甲子園)の試合前、ベンチ裏で話を聞くことができた。

「秘訣なんてないと思いますが…」と切り出したら、ニヤリ笑って思わぬ長広舌が始まった。「まず、走者がいるとしないのでは、投手の攻め方が違うんだ」

彼は「アプローチ」という言葉をたびたび使った。力説したのは、投手の持ち球、捕手の性格、そして事前のデータなどを頭に入れて、ねらい球を絞り込むことだった。「例えば、直球かスライダーか選択肢が2つあるとする。そういう時は、1つに絞り込むんだ。2つのボールを頭に入れたまま打席に入ると、絶対にいい結果は出ない」

そして、試合が始まり、あらためてラミレスの打席をしみじみと見るようになった。

1打席目 二死無走者 三ゴロ

2打席目 一死一塁 遊ゴロ併殺打

3打席目 二死一塁 遊ゴロで二塁封殺

取材者はこんなとき、イヤな気分になる。選手はゲンを担ぐ。試合直前に話を聞いた選手のプレーが芳しくない、自分のせいみたいな気分になる。

そして、4打席目は、3-3で迎えた七回一死二、三塁で回ってきた。この試合で初めて得点圏に走者を置いての打席だった。ウィリアムス投手の2球目を渾身のスイングでたたきつけると、二遊間への適時内野安打となった。これが決勝点となって、ヤクルトは今季苦手にしていた阪神戦の連敗を7で止めた。

ちょっと話が出来過ぎだった。試合後、通路でラミレス選手と目が合って、強烈な笑顔を投げかけられたのは、言うまでもない。勝負師には陽気な仮面がよく似合う。